

# 日本都市社会学会ニュース

No. 73 (2006.3.23.)

発行：日本都市社会学会  
事務局：〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-4-4  
専修大学文学部広田康生研究室内  
E Mail：u\_socio@isc.senshu-u.ac.jp  
FAX：044-900-7814  
(郵便振替口座：00140-4-703976)  
ホームページURL：<http://www.soc.nii.ac.jp/urbansocio/>

## 日本都市社会学会 第24回大会

### 歓迎の言葉

名古屋大学 田中 重好

第24回日本都市社会学会が、9月15日(金曜日)、16日(土曜日)に名古屋大学で開催されます。東京と大阪・京都との中間にあり、全国各地から、皆様がおいでになるには便利かと思しますので、ぜひ、ご参加をお待ちしております。

名古屋大学での日本都市社会学会開催は、現会長の松本先生が名古屋大学在任中でしたので、しばらく、開催されておられません。その間、名古屋大学まで地下鉄が伸び、名古屋も地下鉄環状線が完成しました。また、旧名古屋空港から中部国際空港へと替わり、国際線が増便され、ハブ空港として売り出し中です。さらに、駅前も、ツインタワーが完成した後、駅前を囲んで高層ビルが新築されつつあります。そのビルの一つには、トヨタ本社の機能の一部が東京から移転されたと聞いております。名古屋の中心商店街、栄も、改築が相次ぎ、ますます「さかえ」ております。名古屋経済を支える中心企業であるトヨタが元気なこともあり、地域経済の状況としては「日本一」といわれ、東京ほどではありませんが、都市そのものも着実に変化しつつあります。

名古屋は、「名古屋飛ばし」と地元の人が気にするように、普段では、名古屋に途中下車することが少ないと思います。今回、大都市比較という企画も組まれており、都市社会学会の参加だけでなく、名古屋の都市についても見ていただける機会をもてたら幸いです。

# 1. 日本都市社会学会 第24回大会開催について

期間 2006年9月15日(金)~16日(土)

会場 名古屋大学 文学部棟

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

(地下鉄名城線「名古屋大学」駅下車)

名古屋大学HP: <http://www.nagoya-u.ac.jp/>

## 2. 交通・宿泊の案内

### 交通案内

名古屋駅から

- ・地下鉄東山線藤ヶ丘行に乗車
- ・本山駅にて名城線に乗り換え
- ・名古屋大学駅下車

中部国際空港から

- ・名鉄空港線で金山駅下車
- ・地下鉄名城線に乗車
- ・名古屋大学駅下車

会場となる文学部棟へは、地下鉄1番出口を出て、西に向かってください。地図上の12番が文学部棟になります。



番出口

会場  
文学部棟

宿泊は、主要な宿泊案内/予約のポータルサイトを紹介しておきますので、ご希望に沿ったホテル/宿を探していただければ幸いです。

宿サイト	<a href="http://yado.st/">http://yado.st/</a>
「楽天トラベル」旅の窓口	<a href="http://www.mytrip.net/">http://www.mytrip.net/</a>
じゃらん.net	<a href="http://www.jalan.net/">http://www.jalan.net/</a>
ベストリザーブ	<a href="http://www.bestrsv.com/">http://www.bestrsv.com/</a>
宿泊の王様	<a href="http://www.hotelking.com/">http://www.hotelking.com/</a>
比較.com	<a href="http://www.hikaku.com/kokunaihotel/">http://www.hikaku.com/kokunaihotel/</a>
一休.com	<a href="http://www.ikyuu.com/">http://www.ikyuu.com/</a>
旅んこ玉っち	<a href="http://www.tamatti.net/">http://www.tamatti.net/</a>
好きです旅行	<a href="http://sukidesu.cool.ne.jp/yado/">http://sukidesu.cool.ne.jp/yado/</a>

## 会員の皆様へのお知らせ

### 1. 自由報告の募集 申し込み方法にご注意ください。

第24回大会の自由報告を募集します。このところの自由報告申し込み件数の増大傾向を受け、第24回大会では自由報告部会をより一層充実させ、大会初日の午前と午後、2日目の午前の3時間帯で開催する方向です（第23回大会は初日午前と午後、2日目午前の3時間帯で計6部会を開催しました）。どうぞふるってお申し込み下さい。

なお、2005年の第23回大会より自由報告の申し込みと報告要旨の提出を同時にしていただき、次号の学会ニュースにおいて自由報告要旨を掲載することになっております。

自由報告を希望される会員は、下記の要領で、自由報告の申し込みと自由報告要旨の提出を同時に行ってください。

#### (1) 自由報告の申し込み及び報告要旨の提出方法（締め切り：2006年6月10日(土)）

報告タイトル(仮題は不可です！)、報告要旨(1000字以内・50字×20行《厳守》)、使用機材の有無、報告者氏名・所属、連絡先(住所・電話番号・E-mail address)をA4サイズ1枚以内に記し、それらを保存した文書ファイルを、6月10日(土)午後6時までに学会事務局(u.socio@isc.senshu-u.ac.jp)宛にE-mailに添付してお送り下さい。なお、機材の使用については、会場の都合により不可能となる場合もあります。また、申し込み締め切りを過ぎたものについては一切受け付けないことになっています。メンテナンスなどのためにサーバが一時不通になることもありますので、余裕を持って申し込み/提出されるようお願いいたします。

#### (2) 注意事項(必ずお守り下さい！)

共同報告の場合、登壇者は都市社会学会の会員に限ります。なお、未入会の方が報告を希望される場合は、申し込みを行う前に、入会の手続きをお済ませください。

ファイルは、原則としてテキスト形式とします。Microsoft Windowsを基本ソフトとするパソコンで作成

したものに限り、「Microsoft Word」形式でも結構です。

「報告の要旨/サマリー」を会員に事前にお知らせすることを目的としていますので、**図表は入れ込まず**、文章のみでお願いします（学会ニュース1頁に2報告の要旨を掲載します）。

この要領に反し、本文が1000字（1行50字で20行）を超えていたり、図表が入っていたりする場合は、数日以内で訂正をお願いすることになります。また、期限内に訂正されない場合は、報告を放棄されたものとみなしますので、ご注意ください。

**大会当日にレジュメ/資料を配付する場合は、各自で別途ご用意下さい。**

<p style="text-align: center;">&lt;自由報告申込みと報告要旨原稿の提出&gt; 締め切り：6月10日（土）午後6時まで<b>に必着</b> 申し込み/報告要旨原稿提出の方法：E mail による 申し込み/報告要旨原稿提出先：学会事務局 <a href="mailto:u_socio@isc.senshu-u.ac.jp">u_socio@isc.senshu-u.ac.jp</a></p>
--

## 2. 理事会報告

第4回理事会が、2005年12月11日（日）午後3時30分から専修大学神田校舎で開催されました。

企画委員会からは2006年9月の大会シンポジウム案について「都市社会の構造と変動：三大都市圏の社会・空間構造の再編」をテーマとすることが報告されました。また次々回（2007年度）大会以降のシンポジウム案についても「都市と記憶」「アジア都市」「エスニシティ」「NPOとコミュニティ（少子化と都市）」等のテーマで素案を練ることが報告されました。編集委員会からは、12月3日に開かれた編集委員会で、追加査読委員6名の決定があった旨、報告されました。また、英文抄録の掲載については次々号から載せられるように次回大会において諮ることが報告されました。研究倫理委員会からは、西日本ワーキンググループで綱領作成の話し合いが行われ、司法調停機能はもたせないこと、都市社会学の社会的意義について前文で書き込む方向で検討していくこと、日本社会学会案を下敷きに社会調査場面を想定している部分を中心に書き込むことの三点を基本方針とすることが報告されました。スケジュールとして2006年度大会時に綱領案を提示し、次々回大会における決定を目指し、会員に周知徹底することが確認されました。東日本ワーキンググループでは、サンプリング調査におけるガイドラインの作成が確認されました。ガイドラインの作成にあたっては、ガイドラインの適用範囲と性格をはっきりさせること、質的調査には適用しない理由についても明確にすること。特に、適用範囲としては、個人に対する質問紙を使った面接・留め置き・郵送調査にとどめ、団体や事業所に対する調査は除外すること、を基本方針とする旨が報告されました。

その他の案件として、ソウル市立大学から日本都市社会学会会員2名を招いてシンポジウムを行いたいという依頼があり、候補者として立教大学の大橋健一氏の内諾を得た旨が報告され、さらに早稲田大学の若林幹夫氏への依頼が確認され快諾が得られました。

（常任理事 広田康生）

## 3. 企画委員会報告

第24回大会では、2日目（9月16日）午後以下のようなシンポジウムを開催することになりました。都市社会学の伝統的な業績の一つである都市の社会・空間構造を今日的に検討しようとするものですので、多くの会員の参加を期待しています。

（企画担当理事 園部雅久）

## 都市社会の構造と変動 - 三大都市圏の社会・空間構造の再編

### 【趣 旨】

東京、大阪、名古屋。これらの大都市は、東京大都市圏、京阪神大都市圏、名古屋大都市圏の核として日本国内に存在している。と同時に、その社会、空間的構造は、資本主義世界経済のグローバルな分業体系からの圧力にさらされながら存在している。大都市圏に成長をもたらした近代化・工業化の中で形作られた構造は、現在、脱工業化・グローバル化という社会変動の中で再編・調整を求められている。

社会の経済構造の再編は、都市の社会構造の再編を導き、都市に空間的再編をもたらす。都市社会の構造と変動に対する関心は、都市社会学がその生成期から持ち続けてきたものである。しかしながら、次第にそれは具体的で安定した人間関係、とくに地域集団とそれら相互の関係に関心を絞ることになった。都市社会を独立変数として、そこに生起する問題や住民組織、社会関係を従属変数とする研究は、都市社会学において多数蓄積されたものの、都市の空間的再編というテーマは、むしろ地理学において探求されることとなった。

もちろん、社会的な構造に関する概念や方法についての、都市社会学における研究蓄積は少なくない。しかしながら、それらの概念や方法によってとらえられた社会的世界のあり様が、土地・空間との関係ではどのように位置づけられ、経済的な構造と結びついた政治行政的なレベルでの都市行政や都市計画にいかなる意味で関係していくのかについては、今ひとつ不明確だった。また、諸都市間のヒエラルキーと都市間リンクエージという課題についても、日本の都市社会学は、一時期、都市の総合分類に積極的に取り組んだ研究史をもつものの、都市相互の関係という視点からの分類は、あまり発展していないのが現状である。

今日、GISの発達に伴い、地理学、社会学という学問領域を超えて、学際的な研究領域で社会地図が用いられるようになった。そのような現在、都市社会学においても、これまで蓄積してきた社会関係の研究を踏まえて、都市の社会構造の研究へと折り返すときが来ているのではなかろうか。本シンポジウムでは、GISを用いた研究において先んじている地理学分野から報告者をお招きし、社会地図を用いて三大都市圏の社会・空間構造の再編について論じていただく。そのうえで、都市社会学からはどのようなアプローチと解釈が可能かを、討論者を中心としつつ、フロアを交えて議論したい。

【報告者】 藤井 正（鳥取大学） 「大都市圏における構造変化研究の動向と課題」  
— 都市化、郊外化、逆都市化、再都市化 —

谷 謙二（埼玉大学） 「人口移動と通勤流動から見た大都市圏の変化」

豊田哲也（徳島大学） 「社会階層分極化と都市の空間構造」

【討論者】 玉野和志（首都大学） 西村雄郎（広島大学） 田中重好（名古屋大学、交渉中）

【司会】 浅川達人（明治学院大学） 飯田俊郎（札幌国際大学）

（企画委員 浅川達人）

## 4. 編集委員会報告

編集委員会は、2005年9月7日（第1回）、10月23日（第2回）、12月3日（第3回）の計3回開かれました。『年報』第24号は、9月の第24回大会で会員の皆様に配布する予定です。

今回の年報では、昨年（第23回）大会で開催されたシンポジウム「都市と若者 都市の若者と若者の都市の交わる」とを特集します。報告者の論文のほか、当日の司会者にも解題を執筆いただいております。

その他、例年どおり、自由投稿論文、書評論文、書評などが掲載される予定で、目下、編集作業を行っていますが、最終工程の編集と印刷は、引き続きハーベスト社に委託して進めております。

最後に、『年報』に関するご意見、ご要望がありましたら、お気軽に一橋大学の編集委員会事務局までご連絡下さいますようお願いいたします。

（常任理事 町村敬志）

## 5. 『日本都市社会学会年報』25号(2007年発行)自由投稿論文・研究ノートの募集について

編集委員会では、『日本都市社会学会年報』25号(2007年発行)に掲載する「自由投稿論文」「研究ノート」および「書評リプライ」を募集します。投稿を希望される会員の方は、『年報』24号(2006年発行)に掲載される編集規定、投稿規定、および執筆要項をご覧の上、審査用原稿(3部)を2006年11月末日までに編集委員会事務局までお送り下さい。なお25号より英文要約を掲載する予定であります。投稿ご希望の方はこの点お含みおき下さい。会員諸氏の奮っての投稿をお待ちしています。

(常任理事 町村敬志)

### 編集委員会事務局

〒186 8601  
東京都国立市中2 - 1  
一橋大学大学院社会学研究科 町村研究室 気付  
日本都市社会学会編集委員会事務局  
電話・FAX : 042 580 8642 (町村研究室直通)  
E mail : cs00035@srv.cc.hit u.ac.jp

## 6. 2005年度日本都市社会学会会員名簿についてのお断りとお願い

2005年「日本都市社会学会ニュース」(No.72)の郵送時に「2005年度日本都市社会学会会員名簿」を同封いたしました。中身をご覧になった会員の皆様のなかには、連絡先等についての掲載が少なかったことに驚かれた方もいらっしゃるかと思います。これは、基本的には、個人情報の保護の結果掲載可の項目だけを掲載したことによります。ただ、事務局への住所・所属葉書の返送が少なかったことも影響していると思います。次回は、2007年度に名簿を作成することになりますが、個人情報の保護については変わらずに努力をいたしますが、事務局よりの名簿作成葉書が届きましたら、できるだけお返事をいただけますことをお願い申し上げます。

(事務局担当理事 広田康生)

学会事務局より

次号の学会ニュース第74号は、「第24回大会特集号」として、大会プログラム、シンポジウムのより詳細な紹介、自由報告要旨、会場案内などを中心に編集し、7月下旬頃にお届けする予定です。

## 会員異動

### 新入会員

<関西>

山口 博史 名古屋大学大学院環境学研究科

### 所属・住所・電話番号等連絡先の変更

<所属・所属先名称等の変更>

久野 聖子 同志社大学言語文化教育研究センター 倉田 和四生 順正大学  
田中 恵 平川 毅彦 富山大学

<住所・電話番号の変更>

大場 泰博 (株)茨城総合研究所調査研究 田中 大介 筑波大学大学院  
堤 要 九州国際大学 坪田 典子 東京都立大学  
林 真人 東京都立大学大学院 松宮 朝 愛知県立大学  
眞鍋 知子 金沢大学 向井 良人 熊本大学  
村瀬 洋一 立教大学

### 退会

<関東>

池 周一郎 帝京大学 江原 博次  
嵯峨 創平 丹野 清人 首都大学東京  
福重 清 東京都立大学

<中部・関西>

浅野 千恵 県立広島女子大学 神谷 国弘 関西大学  
前田 信彦 立命館大学 森村 尚 大阪市立大学

<中国・四国・九州>

鈴木 敬一 東筑紫短期大学

### 転居先等不明 (ご存じの方は学会事務局までご連絡ください。)

南川文里 佐藤祐一 藤井浩人 中尾瑞記 H.Loiskandl 溝口潤一郎 水口雅晴 李 天国  
張 静波 柄田明美

(事務局：藤原法子)